# 第2期 神河町人口ビジョン

兵庫県神河町

令和2年3月

# <目次>

1章	神河町人口ビジョンの位置づけ	1
1.	神河町人口ビジョンの策定の目的	1
2.	人口ビジョンの期間	1
2章	人口の現状分析	2
1.	人口動向分析	2
	(1)総人口の推移	2
	(2) 出生数及び死亡数、転入数及び転出数の推移	4
	(3)合計特殊出生率の推移	6
	(4) 未婚率の推移	8
	(5)年齢階級別の人口移動の状況	. 10
	(6) 地域間の移動の状況	. 11
	(7)性別・年齢階級別人口移動の最近の状況	. 16
	(8) 産業別就業人口(15 歳以上)の状況	. 18
	(9) 労働力人口(15 歳以上)の状況	. 20
3章	将来人口の推計と分析	21
1.	. 将来人口推計	. 21
	(1)推計方法	. 21
	(2) 推計パターン	. 21
	(3)推計結果	. 23
2	. 人口の変化が地域に与える影響	. 23
	(1)経済活動に与える影響	. 24
	(2) 医療・福祉に与える影響	. 25
	(3) 地域に与える影響	. 26
4章	将来展望に向けた調査分析	27
1.	. 町民アンケート調査	. 27
2.	. 転入者アンケート調査	. 34
3	. 転出者アンケート調査	. 37
4.	. 若者アンケート調査	. 40
5章	目指すべき将来の方向	43
1.	. 本町の目指すべき方向	. 43

#### 1章 神河町人口ビジョンの位置づけ

# 1章 神河町人口ビジョンの位置づけ

#### 1. 神河町人口ビジョンの策定の目的

神河町人口ビジョンは、本町における人口の現状及び今後の将来展望を明らかにするもので、町民のまちづくりに関する認識を共有し、本町における今後の各種取り組みにおける基礎となるものです。

#### 2. 人口ビジョンの期間

人口ビジョンの期間は、令和 42 (2060) 年までとします。 なお、今後の人口動向に合わせて必要に応じ見直すこととします。

#### 1. 人口動向分析

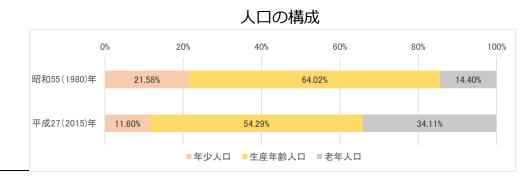
#### (1)総人口の推移

本町の人口は、昭和 25(1950)年の 17,839 人をピークに減少しており、 平成 27(2015)年には 11,452 人となっています。

本町の年齢3区分別人口をみると、年少人口1、生産年齢人口は減少傾向にあります。一方で、老年人口は増加傾向にあり、平成7(1995)年以降は、年少人口を逆転し、平成27(2015)年には、全体の約34%を占めるようになっています。

#### 人口の推移 (人) 20.000 17.459 17,839 15,132 14,659 14,517 14,401 14,266 14,492 13,829 13,500 13,077 15.000 12,289 11,452 10,747 10,000 9,219 9,055 9,269 8.415 8.005 7.658 6918 6.217 5.000 3,906 3,755 3,538 3,108 3.332 2,945 2.984 2,683 2,540 2,430 2,074 2,264 2.163 1,881 1,329 平成27 (2015)年 昭和20(1945)年 昭和35(1960)年 平成17 (2005)年 平成22(2010)年 昭和15(1940)年 昭和25 (1950)年 昭和30 (1955)年 昭和40 (1965)年 昭和45 (1970)年 平成2(1990)年 平成12 (2000)年 **令和元(2019)年** 昭和60 (1985): 平成7(1995) ━-年少人口 - 総人口 生産年齢人口

資料:平成27年国勢調査、令和元年度は兵庫県統計課市町別人口推計調査数値



<sup>1</sup>年少人口:15歳未満人口 生産年齢人口:15~64歳人口 老年人口:65歳以上人口

平成 27 (2015) 年の年齢 5 歳階級別人口の分布をみると、男女ともに 65 ~69 歳の人口が最も多くなっています。また、男女とも 20 歳代の人口が少ないうえに 0~4 歳が少ない逆ひょうたん型のような人口構造となっています。

年齢5歳階級別人口の分布(平成27(2015)年)

資料:平成27年国勢調査

#### (2) 出生数及び死亡数、転入数及び転出数の推移

本町の出生数は、平成9 (1997) 年までは100 人を超えていましたが、徐々に減少を続け、平成30 (2018) 年には57 人にまで減少しました。また、死亡数は、平成6 (1994) 年には149 人でしたが、平成30 (2018) 年には177人と150 人前後で推移しています。

年々、出生数と死亡数の差が開いており、自然減の傾向が目立っています。 転出数は、平成7(1995)年に473人と高い数字を示していましたが、徐々 に減少しており、平成30(2018)年には285人まで減少しました。

転入数についても徐々に減少しており、平成30(2018)年には235人まで減少しました。なお、平成14(2002)年以降は、転出数が転入数を上回っており、社会減の状態が続いています。

総人口の減少の背景には、こうした自然減・社会減の状況がしばらく続いていることがあります。

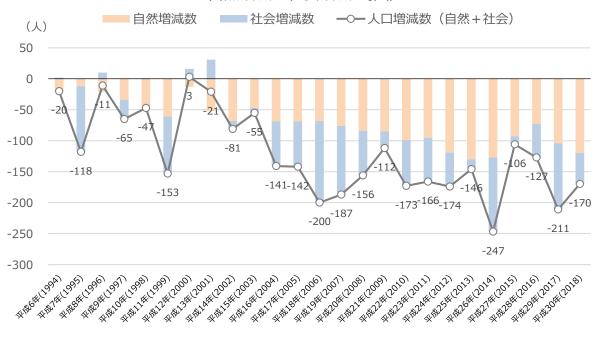


転入・転出数の推移



資料:地域経済分析システム(RESAS)

自然増減と社会増減の推移



資料:地域経済分析システム(RESAS)

#### (3) 合計特殊出生率の推移

出生数に影響を与える本町の合計特殊出生率は、昭和 60 (1985) 年の 2.03 から低下が続いていましたが、平成 17 (2005) 年に 1.27 まで低下した後は、 上昇傾向にあり、平成 27 (2015) 年には 1.52 まで回復しています。

兵庫県の合計特殊出生率は、平成 17 (2005) 年には、最低の 1.25 となっていましたが、本町同様にその後は増加に転じており、平成 27 (2015) 年には 1.48 となっています。

#### 2.20 2.03 1.99 2.00 1.78 1.76 1.80 1.52 1.60 1.41 1.53 1.40 1.48 1.41 1.39 1.38 1.20 1.25 1.00 昭和60年 平成2年 平成7年 平成12年 平成17年 平成22年 平成27年 (1985)(1990)(1995)(2000)(2005)(2010)(2015)**—**神河町 - ◆ - 兵庫県

合計特殊出生率の推移

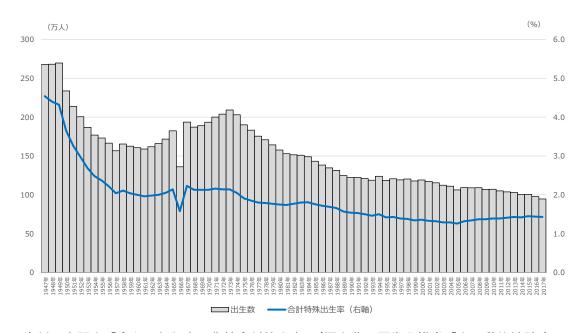
資料: 兵庫県情報事務センター (原出典は平成 27 年国勢調査)

注:合計特殊出生率は、「15~49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の 女性がその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する

全国の合計特殊出生率は、昭和 22(1947)年には 4.54 でしたが、低下と上昇を繰り返しながら、平成 17(2005)年には、過去最低の 1.26 まで低下しました。その後は上昇傾向となり、平成 29(2017)年には 1.43 となっています。

出生数は昭和 24 (1949) 年には約 268 万人でしたが、その後、減少傾向にあり、平成 29 (2017) 年には 100 万人を下回る約 95 万人まで減少しています。そのため、昭和 24 (1949) 年の半数以下となっています。

#### 合計特殊出生率の推移(全国)



資料:内閣府「令和元年版少子化社会対策白書」(原出典は厚生労働省「人口動態統計」)

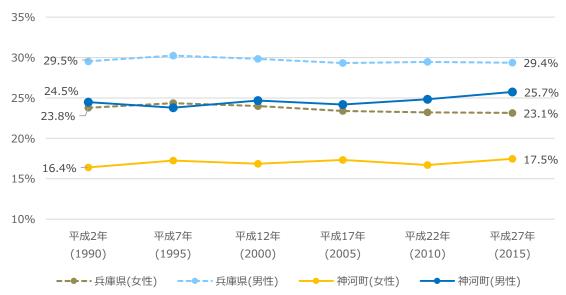
注:昭和41(1966)年は、丙午の年である。

#### (4) 未婚率の推移

本町の男性の未婚率は約 24~26%で推移をしており、女性の未婚率は約 17%前後で推移をしています。

兵庫県の男性の未婚率は約30%で推移をしており、女性の未婚率は約23~24%で推移をしています。

本町、県ともに期間を通して、横ばいで推移しています。



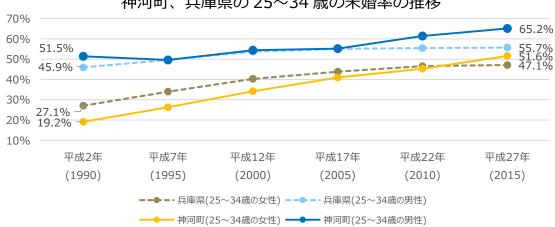
神河町、兵庫県の未婚率の推移

資料:平成27年国勢調査

注:未婚率は15歳以上の結婚したことがない人の割合

その一方で、本町の25~34歳の未婚率は、男女ともに上昇しており、平成 27 (2015) 年では、男性が 65.2%、女性が 51.6%となっています。なお、 近年男性の 25~34 歳の未婚率は、男女ともに兵庫県よりも高くなっていま す。

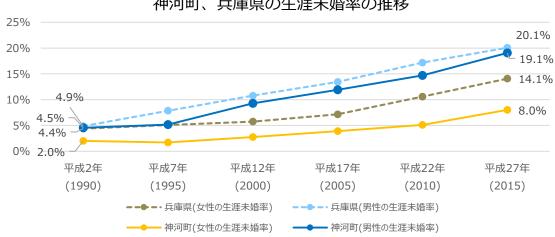
また、兵庫県同様に本町の生涯未婚率も男性ともに上昇しており、平成27 (2015) 年では、男性が 19.1%、女性が 8.0%となっています。なお、これ らの値は、兵庫県と比べて低い水準になっています。



神河町、兵庫県の 25~34 歳の未婚率の推移

資料:平成27年国勢調査

注:25~34歳の結婚したことがない人の割合



神河町、兵庫県の生涯未婚率の推移

資料:平成27年国勢調査

注:生涯未婚率は、45~49歳と50~54歳の未婚率の平均

#### (5)年齢階級別の人口移動の状況

平成 26 (2014) 年から平成 30 (2018) 年の年齢 3 区分別における転入 - 転出数をみると、0~14 歳は転入超過の状況が平成 26 (2014) 年を除いて続いているものの、15~64 歳については転出超過となっています。

#### 40 10 (人) 20 29 21 0 -20 -51 -59 -78 -40 -94 -60 -96 -2 -80 -9 -100 -120 -18 -140 平成28年 平成27年 平成29年 平成30年 平成26年 (2014)(2015)(2016)(2017)(2018)■0~14歳 ■15~64歳 ■65歳以上

年齢階級別の人口移動の状況

#### (6) 地域間の移動の状況

#### ①転入・転出の概況

平成 29 (2017) 年における、本町の移動状況をみると転入数が 204 人、 転出数が 308 人となっており、104 人の転出超過となっています。

転入元の内訳をみると、兵庫県内が144人と最も多く、転入全体の約7割を占めており、中でも姫路市が44人と多くなっています。

一方、転出先の内訳をみると、兵庫県内が 220 人と最も多く、転出全体の約7割を占めており、中でも姫路市が91人と多くなっています。

県外では大阪府からの転入、転出者が多くなっています。

単位:人 + 転入 ■: 転出 東京都 -11 県 6 内 -129 -27 (その: 神河町 大阪府 100 20 他 -50 34 姫路市 県外 (その他)

神河町の転入・転出・純転入数の状況(平成 29年)

単位:人

	転入数	転出数	純転入数
姫路市	44	91	-47
その他県内	100	129	-29
東京都	6	11	-5
大阪府	20	27	-7
その他県外	34	50	-16
合計	204	308	-104

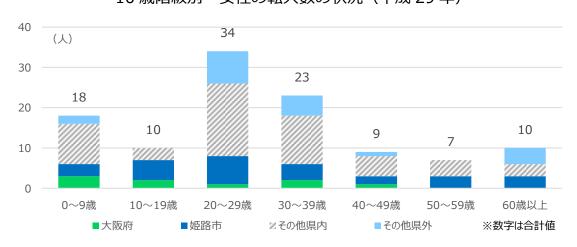
#### ②男女別転入・転出の状況

男女ともに、年齢 10 歳階級別転入数の状況をみると、転入数が多いのは 20 歳代で、次いで、30 歳代、0~9 歳代となっています。また、20 歳代の転入元は、兵庫県内が多く、次いでその他県外の市町村からの転入が多くなっています。

40 (人) 29 30 21 17 20 12 10 40~49歳 0~9歳 10~19歳 20~29歳 30~39歳 50~59歳 60歳以上 ■大阪府 ■姫路市 ♥ その他県内 ■その他県外 ※数字は合計値

10 歳階級別・男性の転入数の状況(平成29年)

資料:住民基本台帳人口移動報告



10 歳階級別・女性の転入数の状況(平成29年)

男性の年齢 10 歳階級別転出数の状況をみると、転出数が多いのは 20 歳代で、次いで、30 歳代となっており、若い世代の転出が多くなっています。

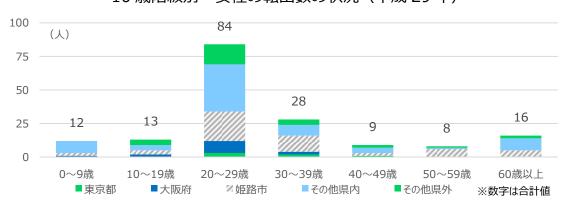
これは、通学圏に大学が少なく遠方の市町へ進学しているほか、就職による ものと考えられます。

女性の年齢 10 歳階級別転出数の状況をみると、転出数が多いのは男性と同様に 20 歳代で、次いで、30 歳代となっており、若い世代の転出が多くなっています。また、男性と比べた場合、県内の市区町村への転出が高い傾向にあります。

100 (人) 75 59 50 25 15 14 25 13 0 0~9歳 30~39歳 40~49歳 50~59歳 60歳以上 10~19歳 20~29歳 ■東京都 ■大阪府 2 姫路市 ■その他県内 ■その他県外 ※数字は合計値

10 歳階級別・男性の転出数の状況(平成29年)

資料:住民基本台帳人口移動報告



10 歳階級別・女性の転出数の状況(平成 29年)

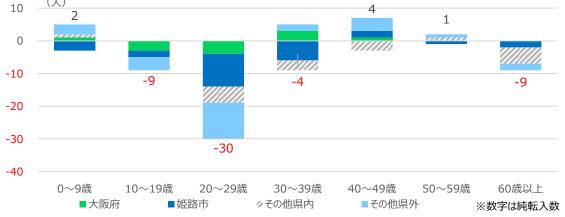
#### ③男女別純移動数の状況

男性の純移動数をみると、20歳代の転出が最も多く、姫路市や県外への転 出が多くなっています。また、姫路市へは、40~49歳代を除く年代において 転出が最も多くなっています。

女性の純移動数をみると、男性同様に20歳代の転出が最も多くなっていま す。男性と比べ、県外よりも県内のその他市町村への転出が多くなっています。

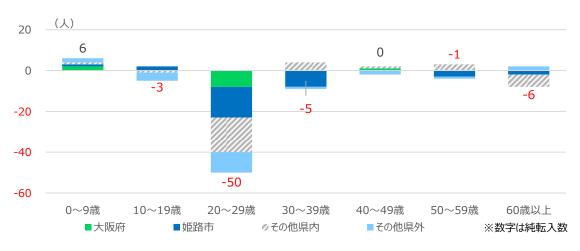
1

10 歳階級別・男性の純移動数の状況(平成29年)



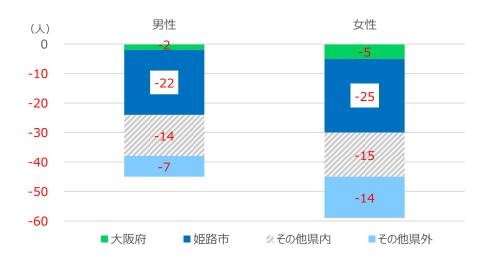
資料:住民基本台帳人口移動報告

10 歳階級別・女性の純移動数の状況(平成29年)



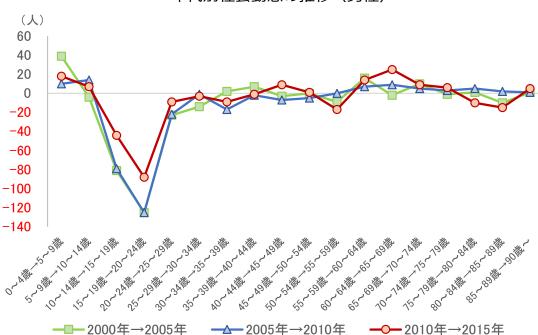
2章 人口の現状分析

# 男女別純移動数の状況(平成29年)



#### (7) 性別・年齢階級別人口移動の最近の状況

年代別・性別に社会動態をみると、男女ともに 10 代前半から 30 歳代後半にかけて転出超過となっており、若者が流出しています。この理由としては、通学圏に大学が少なく遠方の市町へ進学するために転出していることや、就職による転出と考えられます。特に女性については、20 歳代後半から 30 歳代にかけて 2005 年以降に転出超過に転じており、地元に戻って来なくなっていると考えられますが、改善傾向にあります。

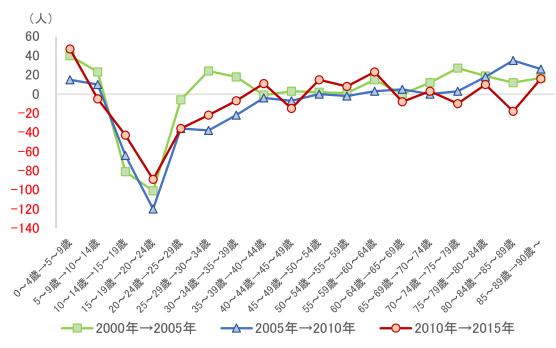


年代別社会動態の推移(男性)

資料:地域経済分析システム(RESAS)

2章 人口の現状分析

#### 年代別社会動態の推移(女性)



資料:地域経済分析システム(RESAS)

#### (8) 産業別就業人口(15歳以上)の状況

平成 27 (2015) 年における本町の産業別就業人口は、第 3 次産業が最も多く、全体の 62.5%を占め、次いで第 2 次産業が 33.0%となっています。

産業人口は全体的に減少傾向にあり、特に第 2 次産業の減少割合が大きくなっています。

平成 27 (2015) 年における本町の産業別大分類人口をみると、男性では製造業の就業者が最も多く、次いで建設業、卸売業・小売業となっています。女性では医療・福祉の就業者が最も多く、次いで卸売業・小売業、製造業となっています。

なお、産業特化係数<sup>2</sup>をみると、男女共に鉱業、採石業、砂利採取業が高いですが、就業者は男性 4 人、女性 3 人とわずかです。産業特化係数が 1.0 を超え、就業人口が比較的多い業種は製造業であり、本町経済の中心と考えられます。



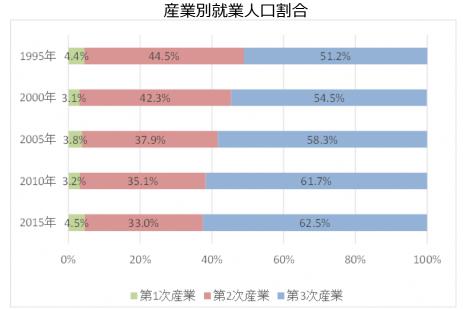
産業別就業人口

資料:国勢調査

.

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> : 産業特化係数は、地域のある産業が、どれだけ特化(集積)しているかを見る係数であり、全国のある産業の全体に対する割合と地域におけるある産業の全体に対する割合を比較したものである。

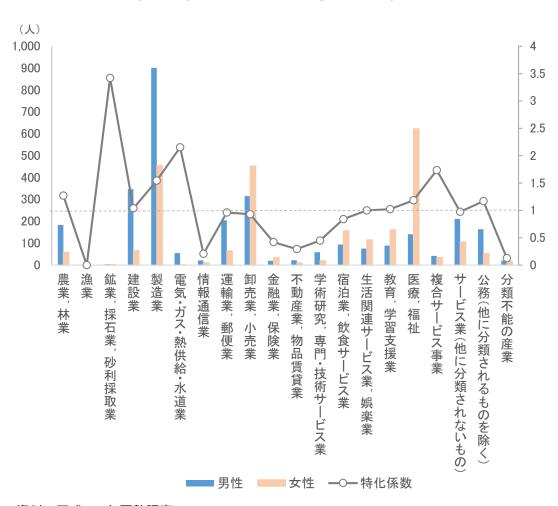
特化係数=神河町の第1次産業構成比÷全国の第1次産業構成比 に基づき各産業の係数を算出する



注:四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります

資料:国勢調査

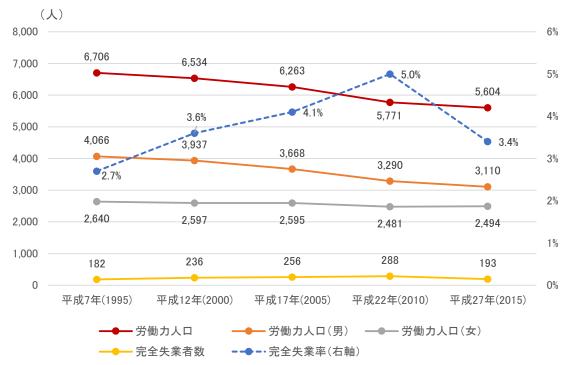
産業別就業人口(15歳以上)及び産業特化係数



資料:平成27年国勢調査

#### (9) 労働力人口(15歳以上)の状況

本町の労働力人口(15 歳以上)は減少傾向にありますが、平成22 (2010)年以降減少傾向は緩やかになっています。性別では男性は減少しているものの、女性はわずかに増加に転じました。また、失業率、失業者とも平成22(2010)年まで増加傾向にありましたが、平成22(2010)年以降は減少しています。



労働力人口、完全失業者、完全失業率の推移

資料:平成27年国勢調査

#### 1. 将来人口推計

#### (1) 推計方法

5 歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート要因法を用いました。また、0~4 歳 人口の推計においては、子ども女性比および 0~4 歳性比の仮定値によって推計しました。 なお、基準人口は平成 27 (2015) 年国勢調査人口とし、①将来の生残率、②将来の 移動率、③将来の子ども女性比、④0~4 歳性比、については、いずれも国立社会保 障・人口問題研究所が各自治体別に公表している仮定値を用いました。

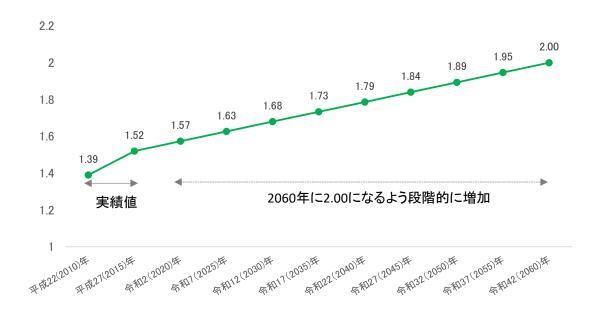
#### (2) 推計パターン

項目	概要	備考
パターン 1	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 (2018) 年推計)」に基づく	生残率等の仮定値は、2050 年以降 2045 年値で一定と仮定
パターン 2	パターン 1 における合計特殊出生率が 2060 年に 2.00 になるよう段階的に増加 する <sup>3</sup> (下図)	合計特殊出生率以外の仮定値はパタ ーン1と同じ
パターン 3	パターン 2 における移動率が 2025 年以降 各年齢で均衡する (移動率が 0 となる)	生残率、0~4 歳性比はパターン 1 と 同じ
パターン4	パターン 2 における移動率が 2025 年以降 20 歳代以上で均衡する (移動率が 0 となる)	生残率、0~19 歳性比はパターン 1 と 同じ

-

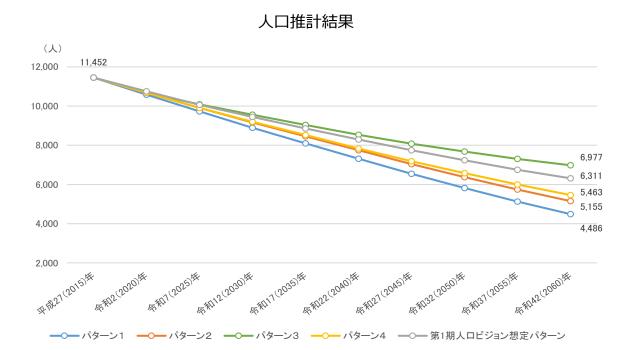
<sup>3</sup> 第1期神河町人口ビジョンに基づく

# 合計特殊出生率の推移(パターン2、3、4)



#### (3) 推計結果

各推計パターンともに 2020 年以降も人口減少が続き、パターン 1 では令和 42(2060)年には 4,486 人になると見込まれます。一方、パターン 2、3、4 は、令和 42(2060)年にそれぞれ(パターン 2)5,155 人、(パターン 3)6,977 人、(パターン 4)5,463 人、になると見込まれます。



#### (各パターンの人口推計結果(人))

パターン	令和 2 (2020) 年	令和 7 (2025) 年	令和 12 (2030) 年	令和 17 (2035) 年	令和 22 (2040) 年	令和 27 (2045) 年	令和 32 (2050) 年	令和 37 (2055) 年	令和 42 (2060) 年
1	10,584	9,723	8,890	8,093	7,313	6,544	5,818	5,128	4,486
2	10,670	9,907	9,166	8,457	7,743	7,037	6,374	5,739	5,155
3	10,670	10,089	9,553	9,038	8,534	8,080	7,676	7,305	6,977
4	10,670	9,906	9,195	8,520	7,832	7,184	6,574	5,994	5,463
第1期人 ロビジョン 想定	10,751	10,063	9,441	8,858	8,294	7,749	7,237	6,750	6,311

#### 2. 人口の変化が地域に与える影響4

#### (1)経済活動に与える影響

人口の減少は労働力の縮小にも影響を及ぼすと考えられます。平成 27(2015) 年国勢調査において、本町の労働力人口は 5,604 人である。性別年代別の労働力率が現在の水準のままであると仮定した場合、本町の労働力人口は、令和 22 (2040) 年では 3,150 人 (2015 年の約 56%)、令和 42 (2060) 年では 1,800 人 (2015 年の約 32%) になると推計されます。

# 5,000 4,000 3,150 2,402 1,800 1,000 0 1,00

労働力人口の推移

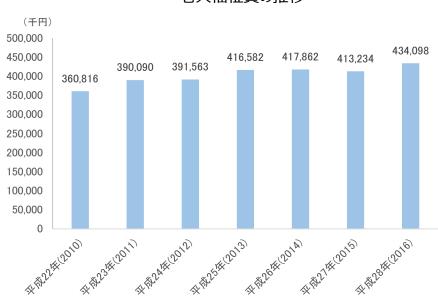
-

資料:社人研推計、国勢調査等をもとに算出

<sup>4</sup> 将来人口は前述のパターン1を採用

#### (2) 医療・福祉に与える影響

高齢者の増加によって医療・福祉に係る費用は増大すると考えられます。一方、老年人口と年少人口を支える生産年齢人口は減少していくと見込まれます。このため、生産年齢人口1人が老年人口と年少人口の何人を支えているかを示す従属人口指数は、平成27(2015)年に0.84でしたが、年々上昇し、令和42(2060)年には1.20にとなると見込まれ、生産年齢人口への負担が増加すると考えられます。



老人福祉費の推移

資料:統計でみる日本 (e-Stat)



資料:平成27年国勢調査等をもとに算出

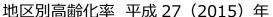
#### (3)地域に与える影響

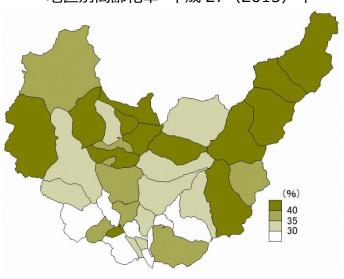
人口減少は、地域の担い手不足、伝統的な行事やイベントの消滅など、地域の活力を低下させる様々な影響を引き起こす懸念があります。また、スーパーや商店等の撤退による日常生活への影響や、空き家の増加による防災・防犯上の問題も発生すると考えられます。

さらに日常の移動が困難になる高齢者の増加に伴い、買い物困難者の増加が 懸念されます。

(%6) 40 35 30

地区別高齢化率 平成 22 (2010) 年





資料:平成27年国勢調査

#### 1. 町民アンケート調査

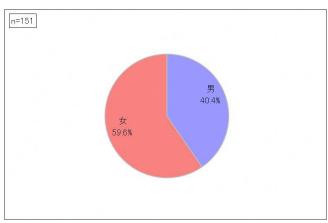
# (1) 調査の概要

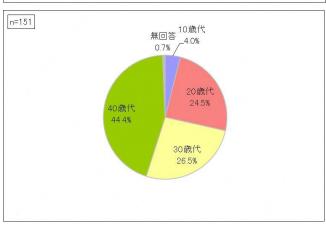
調査対象	満 18~49 歳の町民
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
標本数	300
回収数	151(回収率 50.3%)
調査方法	郵送による調査票の発送・回収
調査期間	2019年11月26日(火)~2019年12月9日(月)

本報告書中の表記について (SA):単純回答、(MA):複数回答、 (n):回答数

# (2) 主な調査結果

#### ① 回答者属性

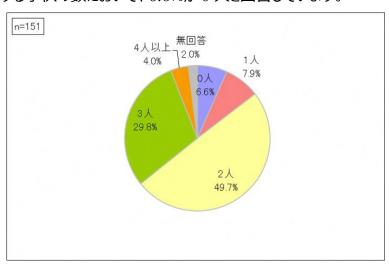




#### ② 結婚・出産・子育てに対する意識 について

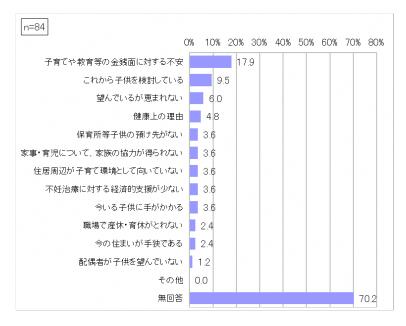
問:未婚・既婚等にかかわらず将来において、希望される子どもの総数は、何人ですか。 (SA)

希望する子どもの総数は2人が最も多く、次いで3人、1人の順となっています。また、希望する子供の数において、6.6%が0人と回答しています。



#### 問:理想より子供の数が少ない理由として何が挙げられますか。 (MA)

「子育てや教育等の金銭面に対する不安」が最も多く 17.9%でした。また、14.4%が医学的な支援が必要と考えられる回答(「望んでいるが恵まれない」、「健康上の理由」、「不妊治療に対する経済的な支援が少ない」を合わせ)でした。



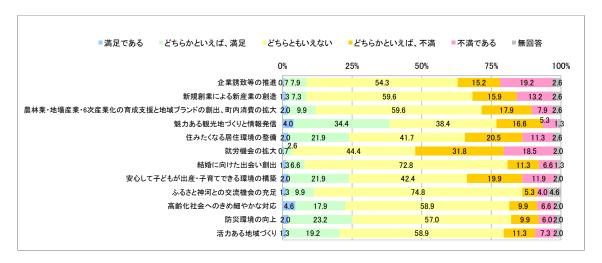
#### ③ 神河町の取組みについて

問:総合戦略の各取組について、「現在の満足度」、「重要度」を選択してください。 (SA)

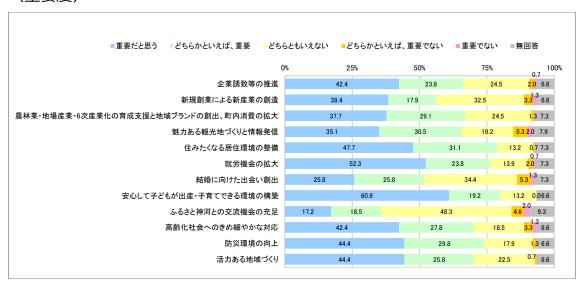
満足度については、「魅力ある観光地づくりと情報発信」や「防災環境の向上」で高い一方、「就労機会の拡大」や「企業誘致等の推進」で低くなりました。

重要度については、「安心して子どもが出産・子育てできる環境の構築」や「就労機会の拡大」で高くなりました。

#### (満足度)



#### (重要度)

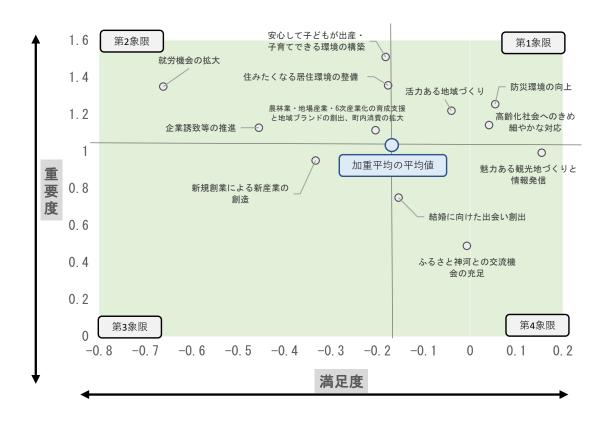


#### (加重平均結果)

#### •算出方法

5 段階の評価に各々2点、1点、0点、-1点、-2点という重みを設定し、例えば5段階各々に回答した人数が、w1、w2、w3、w4、w5 であった場合、加重平均値は以下の式で表されます。なお、この場合加重平均値は-2から2の値をとり、各施策に対する町民の満足度・優先度は2に近づくほど高くなることを表しています。

加重平均値= 
$$\frac{2 \dot{\mathbb{L}} \times \mathbf{w}_1 + 1 \dot{\mathbb{L}} \times \mathbf{w}_2 + 0 \dot{\mathbb{L}} \times \mathbf{w}_3 + \times (-1 \dot{\mathbb{L}}) \times \mathbf{w}_4 + (-2 \dot{\mathbb{L}}) \mathbf{w}_5}{\mathbf{w}_1 + \mathbf{w}_2 + \mathbf{w}_3 + \mathbf{w}_4 + \mathbf{w}_5}$$



<満足度・重要度の2軸分析による取組の方向性の考え方>

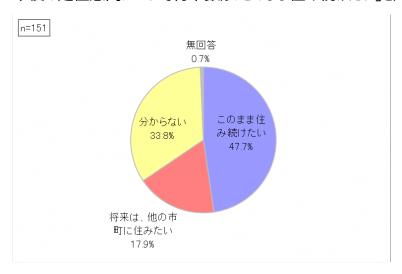
象限	状態	解釈
第1象限	満足度:高重要度:高	相対的に町民ニーズは高いが満足度も既に高い水準にあり、現状 の水準を維持しつつ効率化などの改善を図っていくことが望ましい領 域
第2象限	満足度:低重要度:高	町民ニーズに満足度の水準が合致しておらず、行政経営資源の投入を拡充していくことが望ましく今後重要となる領域
第3象限	満足度:低重要度:低	相対的に町民ニーズは低いが満足度の水準も低く、今後の取り組み、行政資源の投入について見直しを検討することが望ましい領域
第4象限	満足度:高重要度:低	相対的に満足度は高い水準にあるが、町民ニーズは低い領域であり、行政経営資源の投入の縮小も含めて見直しを検討していくことが望ましい領域

満足度・重要度の2軸分析の結果、「就労機会の拡大」、「企業誘致等の推進」、「農林業・地場産業・6次産業化の育成支援と地域ブランドの創出、町内消費の拡大」、「安心して子どもが出産・子育てできる環境の構築」、「住みたくなる居住環境の整備」等の取組みが今後重要になると考えられます。

#### ④ 今後の居住意向について

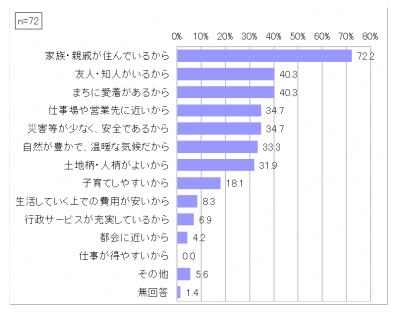
問:あなたは、将来も神河町に住み続けたいですか。 (SA)

今後の定住意向について約半数が「このまま住み続けたい」と回答しています。



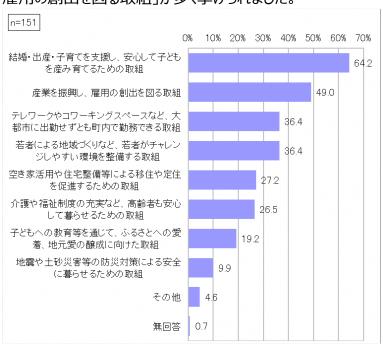
# 問: (「このまま住み続けたい」と回答の方) 今後も住み続けたい理由は何ですか。 (MA)

「家族・親戚が住んでいるから」や「友人・知人がいるから」、「まちに愛着があるから」など、人間関係やまちに対する思いが多くなっています。



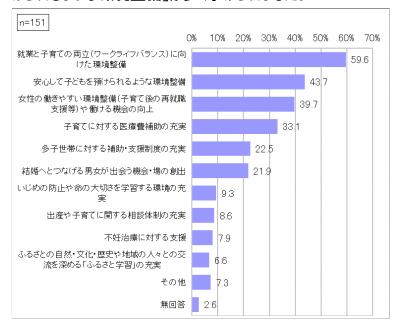
問:人口減少に歯止めをかけ、本町の持続ある発展を目指すためには、どのような取組が必要とお考えですか。(3つ以内) (MA)

「結婚・出産・子育てを支援し、安心して子どもを産み育てるための取組」や「産業を振興し、 雇用の創出を図る取組」が多く挙げられました。



問:結婚・出産・子育ての希望をかなえ、本町の少子化に歯止めをかけるためには、どのような取組が必要とお考えですか。 (3つ以内) (MA)

「就業と子育ての両立(ワークライフバランス)に向けた環境整備」や「安心して子どもを預けられるような環境整備」が多く挙げられました。



#### 2. 転入者アンケート調査

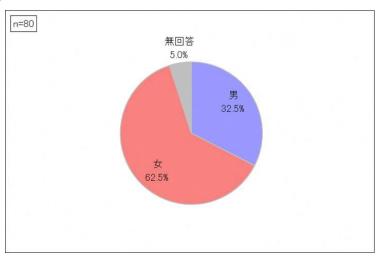
# (1) 調査の概要

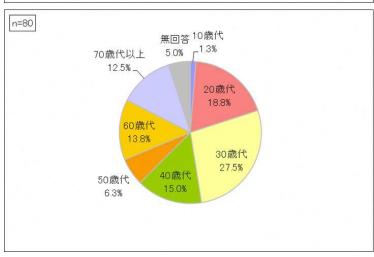
調査対象	過去 3 年以内に転入した町民
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
標本数	281
回収数	80(回収率 28.5%)
調査方法	郵送による調査票の発送・回収
調査期間	2019年11月26日(火)~2019年12月9日(月)

本報告書中の表記について(SA): 単純回答、(MA): 複数回答、(n): 回答数

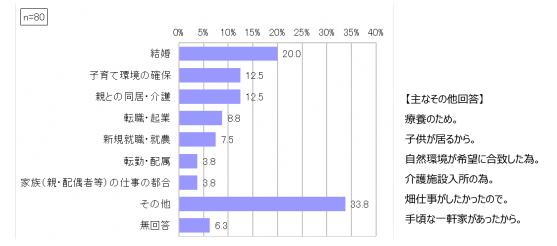
#### (2) 主な調査結果

# ① 回答者属性



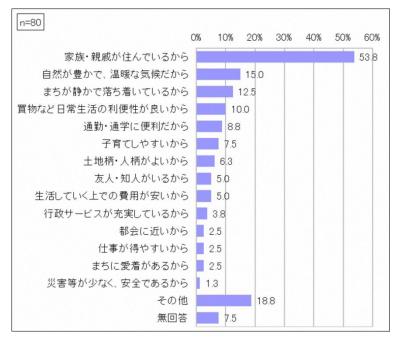


問:神河町に転入した主なきっかけについてお答えください。(MA) 神河町に転入した主なきっかけは、その他を除き、結婚が最も多く、次いで子育て環境の確保、親との同居・介護となっています。

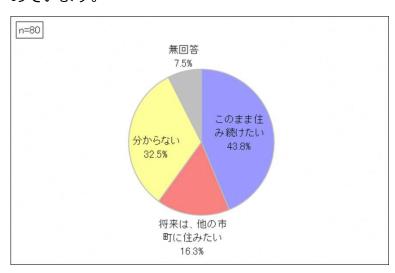


# 問:転入に際して本町を選んだ理由についてお答えください。(3 つ以内) (MA)

転入に際して神河町を選んだ理由としては、「家族・親戚の存在」が最も多く、 過半数を占めています。



問:あなたは、将来も神河町に住み続けたいですか。(SA) 神河町に「このまま住み続けたい」と答えた転入者は、全体のおよそ半数を占めています。



#### 3. 転出者アンケート調査

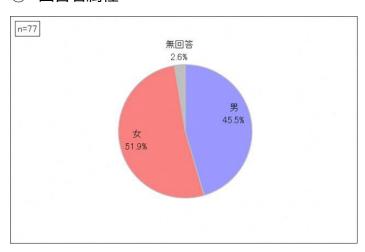
# (1) 調査の概要

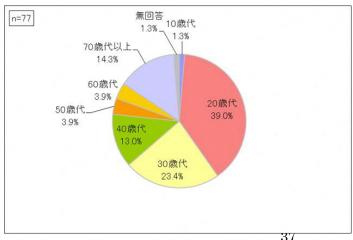
調査対象	過去 3 年以内に転出した町民
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
標本数	431
回収数	77(回収率 17.9%)
調査方法	郵送による調査票の発送・回収
調査期間	2019年11月26日(火)~2019年12月9日(月)

本報告書中の表記について(SA): 単純回答、(MA): 複数回答、(n): 回答数

# (2) 主な調査結果

#### ① 回答者属性

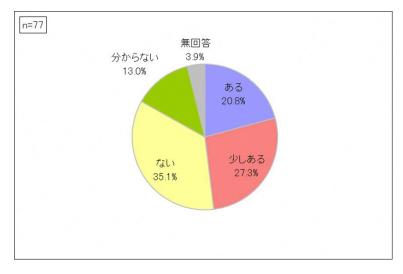




問:神河町から転出した主な理由についてお答えください。(MA) 神河町から転出した主な理由は、結婚が最も多く、次いで就職・転職の順となっています。

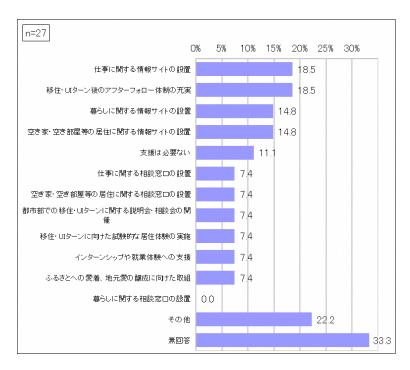


問:将来的に神河町に戻ってきたいという気持ちはありますか。(SA)\_ 将来神河町に戻ってきたいという気持ちについて、「ある」「少しある」と答えた 人の合計は全体のおよそ半数を占めています。一方で、「ない」と答えた人は、 全体のおよそ 35%となっています。



問:あなたが将来、神河町へ UI ターンする際に重要な行政支援は何だと考えますか。(優先度の高いもの3つ) (MA)

「仕事に関する情報サイトの設置」「移住・UI ターン後のアフターフォロー体制の充実」が最も多く挙げられ、次いで、「暮らし」や「空き家・空き部屋等の居住」に関する情報サイトの設置の順となっています。



【主なその他回答】 通勤に対する補助 土地の情報(家を建てるための) 老人の一人暮らしへの援助

# 4. 若者アンケート調査

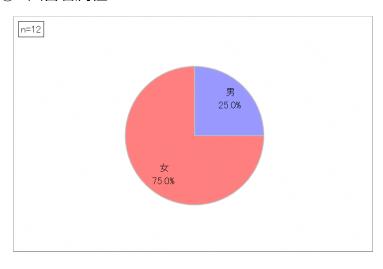
調査対象	神河町成人式実行委員経験者
抽出方法	平成 25 年度以降に成人式実行委員を務めたものから抽出
標本数	50
回収数	12(回収率 24.0%)
調査方法	郵送による調査票の発送・回収
調査期間	2019年11月26日(火)~2019年12月9日(月)

# (1) 調査の概要

本報告書中の表記について(SA): 単純回答、(MA): 複数回答、(n): 回答数

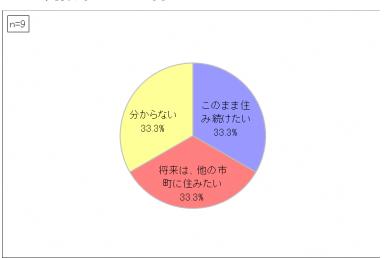
# (2) 主な調査結果

# ① 回答者属性



#### ② 神河町への定住の意思について

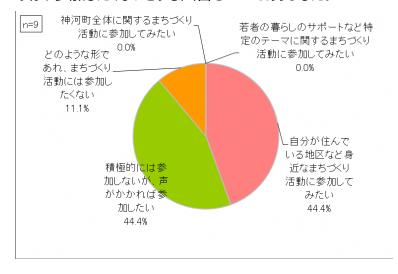
問:【町内にお住まいの方】あなたは、将来も神河町に住み続けたいですか。(SA) 今後の定住意向については、「このまま住み続けたい」、「将来は、他の市町に住みたい」それぞれ同数で33.3%でした。



#### ③ まちづくりへの住民参加について

問:【町内にお住まいの方】今後、神河町のまちづくり活動に参加してみたいと思いますか。 (SA)

まちづくりへの参加意向について、何らかの形で参加したいとする割合が 80%を超えていますが、参加したくないとする回答も 11%ありました。



#### ④ 神河町のまちづくりについて

<u>問:神河町の人口減少に歯止めをかけ、本町の持続ある発展を目指すためには、どのよう</u>な取組が必要とお考えですか。(3つ以内)(MA)

今後の取組として、「結婚・出産・子育てを支援し、安心して子どもを産み育てるための取組」や「空き家活用や住宅整備等による移住や定住を促進するための取組」「産業を振興し雇用の創出を図る取組み」「若者による地域づくりなど、若者がチャレンジしやすい環境を整備する取組」など若者にとって身近なライフイベントや取組が多く挙げられました。



### 5章 目指すべき将来の方向

#### 1. 本町の目指すべき方向

現在の本町の合計特殊出生率は、約1.5 と昭和期の約2 と比べて大きく減少した値となっており、人口を維持するために必要な値が2.07であることを考えると、合計特殊出生率の増加が望ましいと考えられます。

人口の移動状況をみると 10 歳代、20 歳代の若い世代では特に転出超過が多くなっており、30 歳代、40 歳代においても転出超過がみられます。よって、世代に応じた転出抑制を図ることが必要と考えられます。

以上から、本町の**令和 42 (2060) 年度の人口目標**については、第 3 章 におけるパターン 4 の推計数値により、**5,463 人**とします。

また令和 7 (2025) 年度は 9,906 人となることから、目標計画人口は、10,000 人を目指すこととします。

#### 人口の将来展望

